

日米センター

日米センター（The Japan Foundation Center for Global Partnership,CGP）は、日米関係をより緊密にし、日本が米国と協調して世界へ貢献することを目的に、1991年4月に国際交流基金の中に発足、東京とニューヨークに事務所を設置しています。日米両国が国際的責任を分かち合い、世界に貢献するため世界的視野で協力を推進し、相互関係に基づく揺るぎない関係を実現するため、日米各界各層における対話と交流を促進するという目的を掲げ活動しています。

日米交流150周年記念シンポジウム

ペリー提督来航から150年、
国際問題を日米で討議。

2004年4月3日に、日米交流150年委員会と共催で、横浜市開港記念会館にてシンポジウム「日米交流の軌跡と展望」を開催。1853年のペリー提督黒船来航と翌年の日米和親条約締結から150年間の日米交流史を振り返り、国際社会の問題への対処について考察しまし

た。研究者、行政・外交関係者、日米交流団体やNPOのスタッフはじめ計400名近くが参加、会場に入りきれず別室でテレビ観覧をされた方もいました。2004年5月22日のNHK「土曜フォーラム」で当日の様子が放映され、関東地区で1%の視聴率（40万戸の視聴に相当）を上げました。



日米交流150周年記念シンポジウム

日米地域間交流活性化プロジェクト

全国5カ所の検討委員とともに、日米
姉妹都市交流について議論を展開。

日米間の姉妹都市交流は、日本における姉妹都市の歴史のなかでももっとも長く、提携数も多いことが知られています。この経験をもとに、地域における日米交流活性化の方策を探ることを目的とした、（財）日本国際支援センターとの共催プロジェクトです。まず、

米国と姉妹都市提携を行なっている都市を全国から5カ所（花巻市、横浜市、掛川市、下呂市、岡山市）選定。それぞれの都市で、交流活動に中心的な役割を果たしている各2名をはじめ、各開催地の国際交流関係者も参加しました。2004年度は2カ月に1回、計6回の検討委員会を開催し、最後には、横浜市で公開セミナーも実施。さまざまな立場から意見が出され、活発な議論が重ねられました。



公開セミナー：姉妹都市交流の未来を考える
新たな時代の国際交流と地域の活性化のために

安倍フェローシップとNPOフェローシップ

日米交流の新たな人材育成へ、
2つのフェローシップ。

「安倍フェローシップ」は、日米間や世界の知的交流を担う人材の育成、社会科学や人文科学の研究者の国際的ネットワーク作りを目的とした研究奨学金プログラムです。米国社会科学研究評議会と日米センターによる共催事業で、2004年度には13人のフェローを採

用、合計200人以上のフェローを輩出しています。

一方、日本のNPOセクターで活躍する実務家を対象に、米国NPOでの研修機会を提供する「日米センターNPOフェローシップ」も実施しています。2004年度は3名が渡米し、ベンチャー・フィランソロピー、グローバリゼーション問題、性暴力被害者サポートに取り組むNPOで研修に取り組んでいます。



安倍フェローシップ

日米草の根交流コーディネーター派遣（JOI）プログラム

草の根交流で日本への理解を促進。
多くのコーディネーターが活躍。

JOI（Japan Outreach Initiative）は、日本との交流の機会が比較的小さい地域における草の根レベルの交流や日本理解の促進、さらに草の根交流の担い手の育成を目的として、米国（主に南部地域）へコーディネーターを派遣する事業です。

コーディネーターは、2年間にわたり、ボランティアとして、大学や日米協会など地域交流活動の拠点となる学校やコミュニティに配置されます。そこで、日本の文化や社会に関するプレゼンテーションの企画、実施、アレンジに携わるほか、日米交流を深めるための活動を展開します。2004年度には、延べ8名のコーディネーターが活躍しました。



小学校でプレゼンテーションを行なう
JOIコーディネーター